 視覚障害の生徒らが科学体感

2015/8/9


視覚障害のある児童や生徒が科学の面白さに触れるイベント「科学へジャンプ in 広島」が8日、広島市東区の広島中央特別支援学校であった。鳥取県を除く中国地方8県から全盲や弱視の小中高生45人が参加した。

ゾウやキリンの骨に触れる体験、酸素を発生させる実験など14のテーマを用意。参加者は班ごとにそれぞれ二つのテーマを学んだ。

樹木の「冬支度」を学ぶ教室では、モミジやサザンカなどの枝葉の手触りを指先で確かめた。「葉の付け根がちくっとするでしょう」との講師の説明を聞き、夏のうちにすでに小さな冬芽が出ていることを体感した。

大学や特別支援学校の教員などで行う実行委員会の主催。2008年に東京で始まり、現在は文部科学省の委託事業の一環として、全国8地区で開かれている。



 講師（左）の説明を聞きながら、サザンカやキンモクセイの葉に触る参加者